

都基収第787号
平成20年10月21日

国土交通省道路局長 殿

都留市長 小林 義光



今後の道路行政についての意見・提案について（報告）

平成20年9月30日付け、依頼のありました今後の道路行政についての意見・提案について、別紙のとおり報告します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山梨県都留市

来年度からの一般財源化に伴い、必要な道路とは何かをしっかりと持っていないと、予算の確保もできなくなるのではないかと。

国は地方をどのように考えているのか地方からは全く見えない。真に必要な道路の設定は、地元の熱意なのか、構造的なのか、日本の道路網を見て必要な道路を判断するのか、客観的に見て判断するのか示されていない。

地方の道路整備を、経済性だけで判断していくのであれば、地方では道路は作れなくなる。費用対効果が小さい事業は地方の熱意でカバーしていかなければならないということがないよう、国は地方に対するビジョンを持って、地方を守っていくことを十分に考えてほしい。

地方道路については、狭隘（4.0m未満）道路が半数以上を占めており、厳しい財政状況の中整備が思うように進まず、これらの整備に係る補助金・交付金制度の制定について検討願いたい。

また、これらの道路に架かる橋梁についても「長寿命化促進事業」に伴う修繕計画策定に伴い、修繕計画には国庫補助制度があるが、調査費用に対しても補助制度を設けると共に、補助対象となる橋長の見直しをお願いしたい。

②－１ 地域の現状と抱える課題

山梨県都留市

○ 現状

市内の幹線道路は、国道１３９号及び中央自動車道を軸として、国道から分岐し周辺市町村へ通じる主要地方道及び一般県道により放射線状に構成されています。

特に国道１３９号は、中心市街地を通過し、交通量も多く朝夕の渋滞が著しいことから、この渋滞緩和のため都留バイパスの建設が進められています。

また、中央自動車道は土日の渋滞が酷く、移動に際し大きなロスがあります。都市と地方を結ぶ道路があっても時間を要するのであれば、地方の価値も低くなってしまいます。

高速道路の最大の効果である移動時間の短縮が発揮されれば、地方もよくなるチャンスは高まると考えています、このために、さらに使いやすい料金設定や、渋滞対策の実施を行う必要があります。

現在中央自動車道都留 IC については、御殿場方面へのアクセスを可能とするフル IC 化を進めており、これにより東京方面や甲府方面と共に、東海方面への物流や工業のなどの産業拠点としての整備を検討しています。

○ 課題

- ・ 国道１３９号都留バイパスの早期完成と、主要道路との分岐点の右折レーンの設置により渋滞緩和を図る。
- ・ 中央自動車道都留 IC の早期フル IC の完成。
- ・ 都留バイパスの延伸開通時にネックになると思われる田原交差点の改良。

②－２ 地域の目指すべき将来像

山梨県都留市

都留市は、水と緑が織りなす美しい風土を大切に守り、生かしながら、多様で増大する都市活動を発展させ、互いの個性を伸ばしていけるような、自然と都市が融合したまちづくりを目指すことを基本的に掲げています。

特に交通ネットワークについては、周辺地域との連携強化と、多様な交流の活性化を図り、活力ある都市づくりを目指すため、国道渋滞の緩和及びフル IC 整備を促進し、市内の移動を円滑にしていきます。